

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	中村 保幸
<p>The prognosis and recurrence pattern of right- and left- sided colon cancer in Stages II, III, and liver metastasis after curative resection</p> <p>根治切除後の結腸癌Stage II、Stage III、及び大腸癌肝転移における原発部位が与える影響(和訳)</p>			

### 論文内容の要旨

目的: 結腸癌の原発腫瘍の位置は、根治切除後の予後に影響を与えることが報告されている。また、腫瘍の病期にて予後への影響が異なることも報告されている。本研究では、根治切除後のStage II、Stage III、および大腸癌肝転移における原発結腸癌の占拠部位の予後への影響を解析した。

対象・方法: 盲腸から脾彎曲部に存在する腫瘍を右側結腸癌と定義し、脾彎曲部からS状結腸に存在する腫瘍を左側結腸癌と定義した。奈良県立医科大学附属病院で2007年1月から2013年12月まで根治切除術を施行された結腸癌の患者と、2000年1月から2016年12月まで根治切除術を施行された大腸癌肝転移の患者を対象とした。

結果: Stage IIの患者は110人(右:56人、左:54人)、Stage IIIの患者は100人(右48人、左:52人)、大腸癌肝転移の患者は106人(右:41人、左:65人)であった。Stage IIでは、全生存期間と無再発生存期間は、両群で有意差は認めなかった。Stage IIIでは、全生存期間と無再発生存期間は右側群で有意に低かった(OS P=0.004、RFS P=0.020)。傾向スコアによるマッチング後の全生存期間と無再発生存期間でも同様の結果であった(OS:P=0.006、RFS:P=0.007)。大腸癌肝転移では、全生存期間は右側群が左側群よりも有意に低かったが、無再発生存期間では有意差はなかった(OS:P=0.032、RFS:P=0.412)。異時性の大腸癌肝転移では、原発性結腸癌が Stage IIの患者では全生存期間に有意差はなかったが、Stage IIIの患者では全生存期間が右側群で有意に低かった(OS P=0.026)。術後再発に関しては、Stage II、Stage III、大腸癌肝転移の全ての群において、右側群で有意に腹膜再発率が高かった。(Stage II 80.0% vs 15.4% P=0.022 Stage III 62.5% vs 27.3% P=0.022 大腸癌肝転移 23.3% vs 6.4% P=0.041)

結論: 結腸癌の占拠部位は、根治切除後のStage II、III、および大腸癌肝転移の患者にとって重要な予後因子であるが、臨床病期によってその影響は異なった。また、右側結腸癌はStage II、III、肝転移群の3群全てで腹膜再発率が高かった。